

74 新破天荒

令和四年盛夏
創刊 第 4 号



期末考査始まる

姫路南高校入学以来、二回目の定期考査を迎えています。内容も深まり、範囲も広がっていますが、準備は万端ですか。なかなか満足感を得るとまではいかないかもしれないが、準備の段階では「自己を高める」ことの努力を、本番では「持てるものを出し切る」努力をしっかりと行おう。

自分の器の大きさは、自分のした努力によって他者が決めてくれること。自分の能力を勝手に決めつけず、まずは自分を鍛えることに尽力しよう。

さあ、明日から期末考査です。返却される答案の点数を気にしてハラハラするより、準備したこと、鍛えたことが出てくれたらなあというワクワク感や、やったことが出し切れるかなあというドキドキ感を楽しみながら、明日からの考査に臨もう。

やることは前向きに

やる方が、楽しいし、滑らかに動けるものだよ。

悲壯感を抱えている人がいれば、

まずは

やってみよう

正しいより 楽しい
正しいより 面白い
やりたかったこと やってみよう
失敗も思い出

はじめよう やってみよう
誰でも最初は 初心者なんだから
やったことないことも やってみよう
苦手な相手とも 話してみよう
知らなかったこと 見たことないもの
あたらしい 楽しい

悲しいときは 笑って
寂しいときは 声出して
雨はいつまでも 続かない
土砂降りを楽しもう

踏み出そう よじ登ろう
高い山ほど 絶景が待ってるから
遠回りの道を 選んでみよう
険しい峠には 何かがあるさ
ありえなかったこと 出会わなかった人
あぶなっかしい 楽しい

振り返るより 振り向いて
掘り返すより 掘り出して
過ぎた話は ほどほどに 今の話をしよう

恐れず 迷わず
同じ今日という日は 二度とないんだから
明日よりも今日に はじめよう

知らなかった自分と 一緒に走ろう
思い立った日が 思いついた日が
そこがスタートだ

青いより 青い 空もそうさ
同じに見えて いつも違う
どんな人だって 同じじゃないさ
空気なんて読まない

やってみよう
正しいより 楽しい やってみようか
倒れるなら 前に倒れよう
やって後悔などすることないさ
理由なんていらぬ

やってみよう やってみよう やってみよう
やってみよう やってみよう



7月の予定

- 〓六日(水) 期末考査
- 六日(水) 心肺蘇生研修会(一部生徒)
- 七日(木) 職業人講話
- 八日(金) 進研模試
- 十一日(月) 自転車安全講習会(三・四限)
- 十二日(火) 球技大会 教育相談
- 十八日(月) 海の日
- 十九日(火) 防災訓練
- 廊下・階段ワックスかけ
- 二十日(水) 終業式
- 二十一日(木) 〓二十九日(金) 前期補習

8月の予定

- 十一日(木) 山の日
- 十二日(金) 〓十五日(月) 学校閉庁日
- 十八日(木) 〓二十六日(金) 後期補習
- 二十三日(火) 〓二十四日(水) オープンハイスクール 両日補習なし
- 九月一日(木) 始業式



「うちわデザインコンテスト」 (神戸新聞後援) 佳作

「夏祭りのうちわ」ということで、私が思う夏らしいものを、縁側から外を見る構図にして描きました。

ひまわりと麦わら帽子の男子と猫の描写を特に頑張りました。ひまわりは、ひとつひとつの色が少しずつ変わるように色を重ねて塗り、麦わら帽子はと猫は、編まれていることや毛の流れが分かるように、色の塗り方を工夫しました。

今回の「うちわコンテスト」でまさか受賞できるとは、一ミリも思っていなかったのですがびっくり驚きました。それと同時に、とても嬉しかったです。それに、自分の絵に少し自信がきました。

これからも絵を練習して、今よりもっと綺麗な絵を描けるようになりたいと思います。色の塗り方などの細かいところまで、集中して丁寧に、完成度の高いものを描けるようにしたいです。

受賞できたことを振り返ると、本当に嬉しかったです。

(五組 蔵本 悠)

「県総体ベスト4を経験して」 バレーボール部

私は、第一週、二週目は、ライブ配信で三年生の先輩方の試合を見ていました。どんどん点が入り、様々な形で点を取っていく先輩方の試合の応援には熱が入り、自分もその場にいる気分を味わうことができました。

最終日は、ベンチに入り応援することができました。会場に入ると、画面越しとは違う別の雰囲気がありました。

私は、四月に入学してから二か月という短い期間でしたが、県総体に向けて緊張感を持ちながら、必死に練習に取り組む先輩方の姿は、私にとって憧れの存在であり、お手本です。

コートの内、外に関わらず、それぞれの役割を果たし、大会に挑むチームを見て、良い刺激をもらうことができました。この経験を活かし、新しい目標に向かい、日々レベルアップできるように、頑張ります。

(二組 藤力 結美)

私は、女子バレーボール部に入部して二か月間、先輩方と練習に励み、県総体という大きな舞台を経験させていただきました。

試合を重ねるごとに、より緊張感も高まり、セッターというポジションでの責任感も強く感じました。しかし、先輩方の声掛けや、チームワークの良さ、応援して下さる人達の声援が、自分が頑張る原動力となりました。

ベスト4にもなると、相手のレベルも上がり、迫力やスピードも今までの試合とは違っていて、自分の未熟さを痛感しました。

(五組 大橋 萌花)

「県総体六位入賞を経験して」 陸上競技部

今回の県大会6位入賞という成績は、嬉しくも悔しい結果となりました。それは、近畿大会に出場するためには、4位以内に入らないといけなかったからです。

6位ではありましたが、4位の選手と点数を比較してみると、300点もの差がありました。具体的に言えば、800mのゴールタイムで25秒もの差があるのと同じです。一つの種目だけでこの点数差を埋めることはできないので、一つ一つの競技で実力を上げられるよう、練習を積み重ねて頑張っていきたいです。

そう思う一方で、優勝者は、昨年全国制覇をした素晴らしい選手で、格が違っていると感じました。そんな選手と一緒に競技をすることができたことに感謝し、そのような選手になれるように頑張りたいです。

また、先輩方は近畿大会へ出場される方が多く、県総体での頑張られる姿に感動を覚えました。そんな先輩方と一緒に練習ができて、本当に貴重な体験をしているのだと思います。

わたしも、先輩方に少しでも追いつけるように、まずは次の大会で、近畿大会出場を目指して練習に励んでいきます。

(二組 日坂 美咲)

ベスト4という結果で、優勝には一歩及ばず、満足のいく結果ではありませんでした。これからの大会では、この悔しさをバネにさらに成長し、決勝という舞台に立ち、優勝できるように、日々の練習に全力で取り組んでいきたいです。

最後まで諦めずにボールを繋ぐ、そんな姫路南高校バレーボール部の粘り強い精神力や、先輩方、指導して下さる先生の思いを受け継いでいきたいです。

(四組 村上 里緒)

県総体ベスト4を経験して思ったことは、最後まで残るチームは細かい所まで徹底していました。荷物の置き方から、一人一人の意識まで、普段の過ごし方から違うと実感しました。

今回本校がベスト4に入ったのは、そういう面ができていたからだと思います。そのうえで、今回の成績を上回るには、練習量が少なかったり、特待生制度でより力のある選手がいらない分、一球一球の質を上げていくしかないと感じました。

質を上げるには、練習の向き合い方もそうですが、バレーボール以外の面でも、質の向上を意識することが大切なのではないかと考えています。日頃の生活、整理整頓、身だしなみ、友達や先生に対する言葉遣いなど当たり前を徹底して行っていくべきです。

そして、バレーボールができるのは、チームメイトがいて、指導して下さる先生がおられ、相手がいって、支えてくれる保護者があり、毎日体育館が使えるという恵まれた環境にいることを忘れず、感謝の気持ちを持って、今後もプレーを行っていききたいと思っています。

文化祭終わる

六月十七日、文化祭が実施されました。前日には急遽、七十四回生の体育館入場が認められ、上級生とともに同じ空間で文化祭に参加できたことは、一番の収穫でした。

展示作品も、各クラスで工夫を盛り込み、達成感を手にしてくれたと思います。その作品を紹介します。



展示部門第一位
一年三組
「風ニモマケス カラスニモマケス 立派に立ち続けた」
下賞

体育館でみんなを出迎えた
一年一組
「パンパンはじけました！」
で賞



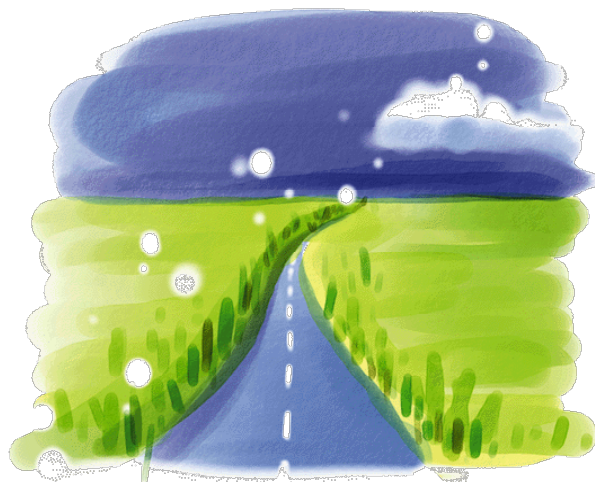
展示部門第二位
一年五組
「毎日片付け 大変だった」
で賞



見送りまで務めた
一年四組
「計画的に準備に 取り組めた」
で賞



正門で保護者も迎えた
一年二組
「皆でよくがんばった！ 団結した」
で賞



初めてクラス全体で行った共同作業の成果です。得た結束、達成感を大切に、しっかりと気持ち切り替えて、期末考査に取り組みましょう。ようやく、ホームルーム教室周辺は落ち着きを取り戻しました。一週間前からだけでなく、しっかりと頑張ってくれていると思います。

「やるときには」やる、「やれといわれそうなことを予測して」やる、「やれと言われる前に」やる。

今回を、姫路南高等学校のスタートとしてどんな卒業を迎えるのか、楽しみにしておきます。

修学旅行について

先日、七十四回生の修学旅行について行先・時期等の内容を記したプリントを配布させて頂きました。その件で、決定の経緯等を含めて、もう少し詳細をお知らせします。

ゴールデンウィーク前に、本校行事検討委員会から、修学旅行について行先案の検討・提示の命を受けました。決定に至るまでのスケジュールですが、各旅行社に、企画書作成のために行先の大まかな提示を行い、ゴールデンウィーク明けに企画書提出、中間調査最終日に旅行社のプレゼンテーションが行われ、その後、学年会議で学年希望案を確定し、行事検討委員会の承認を受けて、七十四回生修学旅行案決定の運びというものでした。

行先の選定ですが、主に新型コロナウイルスの感染状況、気象状況による交通機関の影響、集合時間や解散時間の過剰な早さ、遅さの解消を鑑みて、候補地を信州・東京にさせて頂きました。

複数の候補地を提示し、生徒・保護者の皆様にもアンケート調査を行うなどの手立てもありましたが、決定に至るまでのスケジュールの都合上、七十四回生については、今回の形を取らせて頂きました。事後報告となり申し訳ありません。

内容の詳細は、必要に応じて連絡させて頂きます。先ずは、生徒の皆さんの安心、安全を第一に考え、思い出に残る、将来の進路につながる修学旅行となるよう、準備を進めます。

改めまして、保護者の皆様には、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

74回生のびま

今回は、数学の週末課題を通じて感じていることを伝えたいと思います。

これは、74回生の特徴と言うよりも、世間でも昨今よく言われることですが、「言われた」ことには恐ろしいぐらい忠実です。数学の課題では、観点別評価に合わせて、自由学習欄を設けています。それ以外で出題している練習問題や問いに対しては、教科書や参考書を利用して、ほぼ差がない状態で取り組んでくれています。一方で、自由学習欄においては白紙の状態が少しずつ増えています。授業のまとめをしている生徒もいますが、狙いとしては、自分の成長のために「何を課題に」し、「何を目標に」して、「こういう問題を解いている」という部分などに注目して評価をしています。秀でた内容は、参考になればと学年廊下に掲示しています。

「主体性」が感じられる週末課題が、さらに増えることを期待しています。数名、頑張りが課題の内容とずれてしまつて、勿体ない課題があるので、内容に合致したタイムリーな課題となるように促していきたいと思えます。

前述の「言われたことには」忠実についてですが、
・言われた日にはする
・言われた場所にするが、その隣は気にしない
・気付いても伝えそびれる
などの行動です。

勿論、ずいぶん改善はされています。特に、文化祭準備期間中は良く配慮されていました。このままそういった配慮を身につけて、社会に出たときにもさり気なく行動できるようになつてもらいたいものです。

オンラインであろうが、リモートであろうが、行為に関わるのは人間対人間ですから。

受験科目を知ろう

～理系編～

【工学部】

理系の花形である学部です。どの大学も、数学はⅡⅢABCまで、理科については物理・化学を選択させるパターンがほとんどです。生物工学科系統については、生物での受験もあり得ますが、昨今工学部においては、物理を受験必修科目とされる大学も増加しています。

面談等で生徒の皆さんが多く希望するのは、「情報」と名の付く学科です。ところで、どんな情報内容を学びたいのでしょうか。そう質問すると、「情報は情報。」つまり、内容の把握が少ないまま、名前だけが一人歩きし、入試においても「情報（なにがし）科」という名前に拘つて、高倍率の畏に陥ることが増えています。

考えてみてください。今の時代、建築だろうが、機械だろうが、土木開発だろうが、コンピュータを利用したり、情報収集なくして、研究、作業をすることはまずありません。「情報を」ではなく、「情報で何を」したいのかで、学科を選べるよう、二年かけて考えましょう。

因みにこの学部は、大学院進学が大変多い学部です。仮に、大学受験で本意ではない大学に通つたとしても、大学院で、本意であった大学で学ぶこともできることが多い学部です。

【理学部・教育学部】

教員や研究職などを目指す学部です。入試科目としては、生物系でない限りは、先述の工学部系と同じ入試科目です。生物系教職員、研究職等を目指すのであれば、理科が生物でも受験できる場合も出て

きます。

最近では、両学部とも大学院進学を意識して、大学受験をしている場合が多いです。

【農学・栄養部】

就職先が、薬品会社、食品会社、研究職と、意外と幅広い学部です。通常、専門理科は2科目が多く、生物での受験も可能です。難関校では数学ⅢCまで必要ですが、数学ⅡBC当たりでの受験が可能です。と考えられます。

ただ、あまりこの学部を持つている大学が多くな、難しい学部ではありません。

【看護学部】

必要とされる受験科目として一番厄介な学部です。大学によって、専門生物履修が必要なときは理系を選択する必要があります。生物基礎・化学基礎で受験が可能な大学もあるため、志望する大学の受験科目によって文理選択をしなければなりません。

特に、志望を口にする事が多い兵庫県立大学の看護学部については、現段階では専門生物での履修を必要とします。ただ、志望する大学を変えれば、文系からの受験も多々できるので、看護師資格取得を優先させるか、家から通える所に拘るのか、情報を適切に検索・収集し、三者面談に臨んでほしいと思います。

～文系編～

文系は分かりやすいです。難関大学は、地歴公民科目が二科目、地方大学・私学などは一科目といくくりで考えればよいと思えます。

ただ、確認は必要です。興味のある大学の入試情報は、しっかり大学ホームページ入試情報を見る習慣をつけてください。



各運動部とも県総体が終わりました。本校も前述したように、一年生も上級生の活躍に触れ良い刺激を受けたと思います。今後の学校生活にそれを生かして、自らの成長に結びつけて頂きたいと思います。

さて、総体が姫路で行われた卓球の兵庫県卓球部委員長と、総体開催前日に会食をしました。彼との縁は、私が彼の指導教官となったことから始まりました。

想い出は簡単に語れるものではないですが、私が全国高校総体八種競技優勝者と三年間ともにできたのは、彼との出会いが大きかったことは事実です。因みに、その総体チャンピオンは、私の妻が務める中学校、学年で、妻とともに仕事をしているという摩訶不思議な縁を持っています。

話を元に戻します。現在彼は、卓球の世界では兵庫県高等学校の代表、学校では私と同じく学年主任を任されています。出張も多く、大変多忙な立場だと思えますが、再開後の開口一番は「先生に伝えてもらった朝の散歩を続けていますよ。」という言葉、相変わらずの笑顔とともに聞きました。

朝の散歩とは、校舎内の自分達の学年のHR教室や廊下の窓開けのことです。私も、毎朝行っています。生徒のいないHR教室は、生徒の心根を語ってくれます。机の中に残っているもの、横にかかっているもの、机の落書き、机の並など、生徒達の表情と結構リンクしています。コミュニケーションの材料ともなり得るので、朝の早い時間ではあるけれども、私にとって心を豊かにしてくれる時間でもあります。およそ二十分ほどの散歩を終える頃には、閉ざされていた間の「もわっ」とした空気が、どんな季節でも「ひんやりした爽やかな」空気を感じられる心地良い瞬間を感じることができます。

この行為は私オリジナルでなく、新任の頃に先輩教員から教えてもらったことでした。再開した彼だけでなく、私が三十代の頃にも勤めた仲間が、現任校でそれぞれ「朝の散歩」を続けてくれていることを聞くにつけ、嬉しい限りです。

かつては、そんな時間を共有しながら目の前にある様々な自分の問題、生徒の問題、直近の目標などを話していたことを思い出します。

いまの時代の「働き方改革」には完全に逆行するものかもしれませんが、そういった時間を勤務時間と捉えるか、勤務の準備と考えるか。残された数年の教員生活の中で、私はこの時間を楽しみたいと思います。

懐かしい想い出話をとりとめもなく綴ってしまいましたが、一つ思い出させてもらったこと、自分に妥協していたことが、このたびの再会でありました。それは彼のもう一言「廊下のモップ掛け」でした。その時間をかけることに対する妥協を、いつの間にかしていたことに気付かされるとともに、これだけ多忙な中でも、自分がやると決めたことをやり続けている彼に対して、尊敬の念と自分の甘えを感じずにはいられませんでした。

初心

私は彼らに何を伝えたかったのか。その気持ちを、少し失っている自分が恥ずかしいと思う時間でもありました。

平日の夜の時間であったので、限られた時間でしたが、こういった時間は苦痛に思うこともなく、過去の事実、いまの事実が重なって、あつという間に時間が過ぎました。ただ、お互い少し歳を取った分、翌日の業務には少しだけ(いや、かなり)・・・

今月のの 勧め

五月より掲載の「.....の勧め」ですが、五月は「無駄」なことを、六月は「諦めない」ことを勧めてみました。

これらはすべて、自分の主観から見れば、と言う前提での「無駄」であり、「諦めない」であるわけですが、この先も私の主観でいろんな「勧め」をしていきたいと思っています。

ということ、今月は.....。高校生活も三か月も経つと、中学校とは明らかに異なり、無駄ではないけれども犠牲にしなければいけない時間が増えるとともに、求められることが増え続けている事実の中で、今を生活していると思います。そんな中で、すべてをマスト事項にして生活をするのでとても息苦しくなっている人もいるのではないですか。

そんな人たちに向けて、何かをいったん「捨てて」みる勇氣を持つてみることを勧めます。
「がんばれ」という一方で「捨てる」とは、矛盾していると言われても仕方ありませんが、これらの物事を「点」で見れば矛盾と言われるでしょう。でも、物事を「線」で結ぶためには、時には線を曲げたり、線を止めたりしながら、その先に力強い線を引くために「止まる」、「休める」勇氣を持つための「今という瞬間だけ」マストを捨てて、別の立場で「マスト事項」を考えてみるのはいかがでしょうか。

「やらねば」は、前進する力を大きく妨げます。一方、「やらない」と決める勇氣を持つことは難しい。「やらない」と言うより、実は「やれない」自分に悩まされることは、教師生活の中で何度も経験し、その時に、抱えたものを一度でも下ろすことができず、「やろう」とするきっかけを掴んできました。

真面目であるがゆえに、いったん「下ろす」ことが、いったんでも「捨てる」イコール「さぼる」「逃げる」ように感じて、「やらない」ではなく、「やれなく」なっている自分を認められない生徒と出会っていることも事実です。

もし、自分を責めている生徒がいるとしたら、一瞬、自分のマストを「捨てる」勇氣を持つてみませんか。

それですべてがうまくいくとは限らない。でも、立ち止まることで「いまの自分」を見ることができず、「やってみよう」という氣力とも向かい合える。成長するには、そんな自分と向かい合う、この連続です。

ということ、今月は「自分の感じる辛さ」を少しでも軽くするために、一瞬マストを「捨てる」勇氣を持つてみることを勧めてみます。
と言いつつ、明日からの調査は、自分の「出せる」ことを出し切る調査にしよう。

因みに、

どさくさに紛れて、
「捨てていいんや」と
「余裕をかます」
のは駄目ですよ(笑)

次号は、一学期終業式発行の予定です。